

○ やまぐちイクメン応援表彰の受賞者（5名）

（五十音順）

| 区分 | 氏名 | 取組内容 |
|------|----------------------------|---|
| 最優秀賞 | おおもり やすし 大森 泰 （光市） | <ul style="list-style-type: none"> ○両実家に頼めない状況にありながら、夫婦二人で色々なことを乗り越えてきた矢先に妻が入院してしまう。夫婦でも回すのが大変な夏休み、家事や育児を一人でこなした。 ○妻の入院中、手作り弁当を作り続け、母のいないことで子どもに寂しい思いをさせないように、手作りメニューを貫き通し、最後にはキャラ弁を完成させた。 ○大変な状況にあっても、「子育てって楽しいんだ」ということをいつも見せてくれる。 |
| 優秀賞 | こうの みちたか 河野 通敬 （下松市） | <ul style="list-style-type: none"> ○スマホの todo リストアプリを使い、朝・夜の子供の対応に抜けがないようにしている。入社までにできなかったことも夫婦で共有する。 ○単に子供と遊ぶだけでなく、親も一緒に楽しむ工夫をしている。絵本の読み聞かせをアレンジし、妻の誕生日等のイベントは子供と一緒に手作りお菓子を作ってプレゼントする。 ○フレックス勤務やテレワークを活用して、夕方早くに帰宅し、子供の世話をした後や、早朝に仕事をする事で時間を有効活用する。 |
| | しもかわ ひとし 下川 仁志 （周南市） | <ul style="list-style-type: none"> ○我が子に全力で向き合いたいという思いから、妻の妊娠がわかった翌日に育休を申請。職場の理解を得るため、計画的かつ丁寧に仕事の引継ぎを行った。 ○家事・育児を仕事量で考えるのではなく、妻の気持ちを考慮した質で考えることが大切だとし、お互いの家事・育児に対して感謝の気持ちを持ち、「ありがとう」と言うことを心がけた。 ○育児に関する講座等に参加し、たくさんの育児情報を手に入れて活用した。 |
| | なかじま まさる 中島 優 （柳井市） | <ul style="list-style-type: none"> ○第2子誕生に合わせ、一年間の育休を取得。里帰り出産をする妻の実家で生活を共にし、子どもとの時間を大切にしたい。 ○日頃から妻や子どもの様子をよく見て、パパとしてできることはないかと常に考えている。妻ができなかった家事・育児のフォローがとても手厚い。 ○被り物や衣装、装飾品が大好きで、子どもがぐずった時や笑顔がほしいときに大活躍している。 |
| | もとむら せな 本村 世名 （防府市） | <ul style="list-style-type: none"> ○里帰り出産を終え、自宅での生活をスタートさせたあと、妻が家事・育児にいっぱい見守る様子を見て育休取得を決断。約2ヶ月の育休を取得した。 ○家事・育児は「手伝う」感覚ではなく「できることをするだけ」がモットーで、楽しみながら家事・育児を行っている。 ○時間の合間をぬってDIYで子どもが使うものをたくさん作る。子ども机や椅子、テレビガードまで作ってしまう。 |